


ベトナムの保健医療分野における日本の ODA 評価
(被援助国政府・機関による評価)

1 テーマ：ベトナムの保健医療分野における日本の ODA 評価	
2 調査対象国：ベトナム社会主義共和国	
3 評価実施者： Consultation of Investment in Health Promotion (CIHP) 社 ヴー・ソン・ハー（チームリーダー） チャン・フン・ミン（CIHP 社代表） ブイ・ティ・タイン・マイ ダン・ティ・ホン・リン	
4 調査実施期間：2013 年 10 月～2014 年 3 月	
5 評価方針	
<p>(1) 目的</p> <p>日本のベトナムの保健医療分野への支援に対する被援助国による評価を通じ、日本の当該分野における今後の援助政策の策定や実施に有益な情報や提言を得ることが、本評価の目的である。</p> <p>(2) 対象・時期</p> <p>本評価の対象は、ベトナムの保健医療分野に対する日本の ODA による支援策である。本評価においては、「保健医療サービスの質の改善」、「感染症対策」の主要二分野に焦点を当て、2000 年から 2010 年の間に実施された以下の 5 つのプロジェクトを各分野のキーとなるプロジェクトとして評価対象に選定し評価を実施した。</p> <p>○保健医療サービスの質の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベトナム国バックマイ病院プロジェクト（技術協力） ・バックマイ病院地方医療人材研修能力強化プロジェクト（技術協力） ・地方病院医療開発計画（有償資金協力） <p>○感染症対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・麻疹ワクチン製造施設建設計画（無償資金協力） ・麻疹ワクチン製造基盤技術移転プロジェクト（技術協力） <p>(3) 方法</p> <p>「目的の妥当性」、「結果の有効性」、「プロセスの適切性」の 3 項目から評価を行った。評価は以下の手順で実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①プロジェクト関係機関の保有する関連文書、計画書、報告書の整理・分析 ②様々な階層の主要関係者に対し半構成的インタビューを実施し、関係者の意見や経験談を聴取 ③プロジェクトサイトを視察し、被援助機関の施設、医療器材、業務実施状況を確認 ④各プロジェクトの成果指標やデータの有無に応じて、視察先から追加データを収集 	

6 評価結果

(1) 総論

ベトナムの保健医療分野への日本の ODA 支援については全体として高評価が与えられる。目的の妥当性の観点からは、ベトナム保健医療分野に対する日本の ODA による支援方針とベトナム側のニーズ及び国際的な開発目標との整合性は非常に高い。結果の有効性の観点からは、評価対象とした各プロジェクトはいずれも成果の達成に成功しベトナムの医療保健分野の改善に貢献しており、持続性も高い。プロセスの適切性の観点からは、日本の支援はカウンターパートとの対話や協議、協働を重視しており、概して良好に受け入れられている。一方でモニタリングや評価、報告の面で多少の改善が必要である。

(2) 「目的の妥当性」に関する評価

ここ 10 年間のベトナム保健医療分野に対する日本の ODA 支援策は、質の高い保健医療サービスへのアクセシビリティの改善という観点から、「国民の健康確保に関するベトナム国家戦略」に掲げられる優先度や目標との整合性が非常に高く、各支援対象機関のニーズにも合致している。ベトナム保健医療分野に対する日本の ODA は「保健と開発に関するイニシアティブ」などの日本の政策や戦略とも全般的に整合がとれており、また、「ミレニアム開発目標 (MDGs)」等の保健医療サービス供給に関する国際的な共通目標にも合致している。

(3) 「結果の有効性」に関する評価

全般的に見て、評価対象としたプロジェクトにおいては、成果目標の実現に成功しているといえる。具体例を挙げると、バックマイ病院に対する 2 つの技術協力プロジェクトにおいては、患者データベースや財務管理における電算システム使用法の改善、患者死亡率や院内感染率の低下、医療技術や研修能力の向上、トータルケアの導入といった点で、めざましい改善が図られたことを確認できた。麻疹ワクチン製造に関する無償資金協力及び技術協力プロジェクトにおいては、ワクチン製造施設の整備及び製造技術の確立を通じて、ベトナムにおいて麻疹ワクチンの安定供給を図るという目的が達成された。3 つの地方省病院を対象とした有償資金協力においては、対象病院の能力が著しく改善し、新たなサービスの導入が図られ、患者受入数が増加し、患者死亡率が低下した。また、人的資源、医療器材の有効活用及び維持管理、病院機能強化という側面において、全評価対象プロジェクトの持続性は高く評価できる。

(4) 「プロセスの適切性」に関する評価

ベトナム保健医療分野に対する日本の ODA 支援の実施プロセスは包括的であり分かりやすい。日本の支援においては、カウンターパートとの対話や相談、協働が重視されている。ベトナム側の関係者は日本の専門家の指導に敬意を抱き満足している。モニタリングや評価に関しては、プロジェクトの開始時や実施中においてはその方法が機能している。しかしながら、プロジェクト終了時にプロジェクトの実施結果をモニタリングし報告するメカニズムが明確ではない。

7 提言

(1) 日本の ODA 支援の継続

ベトナムの保健医療分野への日本の ODA 支援を継続すべきである。ベトナムがマクロ経済上の困難に直面し、保健医療分野への国家予算の割り当てが急激に減少した状況下において、直近 10 年間の日本の ODA プロジェクトは、ベトナムの保健医療分野における目標を達成し、優先度の高い課題へ対応するうえで非常に重要な位置付けにあった。今後も、日本の ODA プロジェクトはベトナム保健医療分野における優先度に則して継続されるべきである。

(2) 積極的な参加とコミュニケーションの促進

プロジェクトの運営においては、より積極的な関係者の参画とコミュニケーションを強化する必要がある。より多くのベトナム側関係者が当事者意識を持ち、説明責任を果たし、プロジェクトの有効性や持続性を確保すべく貢献することが望まれる。このことがベトナム側関係者のプロジェクト運営能力の向上にもつながる。また、関係者間に誤解が生じるのを防ぎ、意思決定において高いレベルの合意を確保し関係者間の満足度を高めるためにも、各関係機関の間での対話を促進すべきである。

(3) プロジェクト準備段階の機能強化

ODA プロジェクトの準備や承認のプロセスを強化すべきである。提案されたプロジェクトの準備は多くの手順を経て慎重に進められ、結果としてプロジェクト設計の質は高くなる。しかしながら、このことがプロジェクト遅延の要因となるケースもあった。関係者間の協力をより一層促進し、プロジェクト準備期間を短縮する必要がある。

(4) モニタリング、評価のシステムの改善

モニタリングや評価のシステムを改善する必要がある。プロジェクト・デザイン・マトリックス (PDM) をまとめる際には、具体的で実現可能な成果指標を設定すべきである。また、成果指標は、プロジェクトの成果目標を反映したものとするとともに、被援助国側が管理する統計情報から収集できるものとすべきである。更に、プロジェクトの持続性の確保を目的としてプロジェクト終了後においてもモニタリングや報告を継続することは、JICA やベトナムの保健医療セクターにとって有益である。供与された医療器材の使用状況や効率、維持管理状況を記録し管理するシステムの構築も望まれる。

(5) 費用対効果分析の導入

費用対効果分析の導入は、JICA やベトナム保健省がプロジェクトの効果を把握し、根拠に基づいた投資を検討するために有益である。

(注) 上記は、評価実施者の評価報告書を基に現地の日本大使館にて要約し、日本語に訳したものです。記載内容は評価実施者の見解であり、日本政府の立場や見解を反映するものではありません。